

ISO 14001

規格改訂情報と

移行準備について

～規格改訂の動きから社会的優先課題へ
取り組むことで企業価値、持続可能性を高める～

インターテック・サーティフィケーション
認証部

ISO 14001規格が2026年1～2月頃に改訂発行する動きで進んでおり、現在国際規格案まで進んでいる状況です。認証組織にとってどのように準備をすることで発行時対応ができ、さらに企業としてどのようなメリットを享受することができるのか、ご参考にしていただけたら幸いです。

0

移行期間は2年間で予定

今回の規格改訂は旧2004年版から現2015年版への改訂ほど大きな変更がないと言われていたますが、環境は世界的、社会的な優先課題であることから認証組織は高い関心を持ちながら準備をすることが重要です。発行後改訂版への移行期間は2年間と言われており、認証組織は改訂内容の運用実績を積んでからの受審となります。発行後スムーズに運用実績を積むためには現2015年版要求事項の本質をいかに捉え運用しているかがカギとなります。

1

ISO 14001現要求事項の「本質」

規格作成ルールでは定期的な見直しが義務付けられております。ISO 14001技術専門委員会 分科委員会 (ISO/TC 207/SC 1) を中心に見直しされており、規格が利害関係者の期待、技術開発等の変化に対応し続

特集

現在、ISO 9001とISO 14001の規格改訂が進められています。今号では、来春の発行が見込まれているISO 14001に焦点をあて、改訂のポイントや移行準備についてご紹介いたします。新版への対応準備とあわせて、新たな視点を取り入れながら、企業活動の質と持続性を高めるヒントとしてご活用いただければと存じます。 (編集部)

けることが確保されております。現2015年版発行前、「環境マネジメントシステムの将来課題に関する研究会」は将来の環境マネジメントシステムに関連する以下のテーマを発表し、改訂に関する一連の推奨事項を開発しました。

- ・持続可能性と社会的責任の一翼を担う
- ・環境パフォーマンス(の改善)を含める
- ・全体的(戦略的)事業マネジメントとの連携
- ・サプライチェーンにおける環境影響の考慮
- ・外部コミュニケーションへの反映 等

これらから現社会においてよく聞く「持続可能性」「サプライチェーン」等が以前からいかに重要視されていたかが分かります。ISO 14001要求事項の本質が上記から読み取れます。

2

2026年改訂版運用への準備として ～2015年版改訂時ポイントを再確認する～

現2015年版運用ポイントは以下となります。認証組織の各マネジメントシステム内に取り込まれているか、再確認することが改訂版発行時の運用準備につながります。

戦略的環境マネジメントシステムとリーダーシップ

組織戦略を策定するにあたり環境の重要性が高まっている中、事業と環境に利益をもたらすために組織の状況を理解するという要求が組み込まれております。特に組織に影響を与える、または組織から影響を受ける可能性のある地域、または地球規模の環境状態に関連する課題や変化に焦点を当てることが求められています。優先事項として特定されることで有害なリスクを軽減したり、

有益な機会を活用したりする活動が、環境マネジメントシステムと事業の戦略的な運用に統合されることにつながり、これらの成功を確実にするために、組織内で推進する役割を担う人々に特定の責任を割り当てる目的でリーダーシップが求められていることになります。

ライフサイクルの視点とコミュニケーション

組織内の活動における環境側面に関する要求事項(旧2004年版)に加え、現2015年版において組織は設計・開発に関連する環境影響にも管理と影響力を拡大し、ライフサイクルの視点として、原材料の調達、設計、製造、輸送／配送、使用、使用済み製品の処理、最終処分などに対応することが求められています。

また、組織はアウトソーシングを管理または影響を与える必要があり、外部と内部に同等の重点を置いたコミュニケーションの戦略的策定が要求されています。これには一貫性と信頼性のある情報の伝達、および管理下で働く人々が環境マネジメントシステムの構築に関する要求が含まれます。外部コミュニケーションの決定については利害関係者の期待を考慮することが求められています。

環境への保護と環境パフォーマンスの改善

組織への社会的な期待は事業環境に合わせて環境を保護するため積極的に取り組むように拡大されています。汚染の予防、持続可能な資源利用、気候変動の緩和と適応、生物多様性と生態系の保護などが含まれることが要求されています。

マネジメントシステムだけではなく「環境パフォーマンス

の改善」が重要です。組織はコミットメントに基づき該当する場合、排出量、排水量、廃棄物を設定したレベルまで削減につなげる運用が求められています。

3 企業価値、組織の持続可能性を高めるために

これらの改訂背景から2026年改訂版発行への対応準備は環境への取り組みはもちろん、事業に対しても利益をもたらす企業価値、さらに組織の持続可能性にもつながります。近年ESG(Environment[環境]、Social[社会]、Governance[ガバナンス(企業統治)])に配慮し事業活動を行う組織が増えており、環境は「企業活動における使命」と考えても過言ではありません。社会全体におけるサプライチェーンでの環境への取り組みが、社会そのものの持続可能性をつくりあげ、世界的、地球レベルの持続可能性を高めることにつながります。その一部を担っているのが認証組織皆様であることは間違いありません。

* 出典元:「ISO 14001 Auditing Practices Group」
(<https://committee.iso.org/sites/tc207sc1/home/projects/published/iso-14001---environmental-manage/iso-14001-auditing-practices-gro.html>)

【お問い合わせ】

特集内容に関するご質問・ご不明な点等ございましたら、東京事務所 ISO認証部までお問い合わせください。

ISO認証部 Email:cert-scheme.japan@intertek.com

INFORMATION —セミナー情報—

関連セミナーも順次開催予定をしております。

◆ ISO 14001:2026(予定) 改訂準備セミナー《オンデマンド》

【概要】

本セミナーでは、ISO 14001規格改訂の概要理解と合わせて、現行の2015年版から2026年版(予定)への認証移行、および移行後の有効な運用に向けての準備とスケジュール感をつかんでいただくことを目的としています。セミナー内では、参考として2026年後半に改訂発行予定のISO 9001の最新進捗情報についてもご紹介いたします。

※注) 改訂規格要求事項(全体)については、「改訂規格(DIS)セミナー(2025年10月下旬開始予定:オンデマンド)」のご受講を推奨いたします。本セミナーでは改訂要求事項(一部)のみのご紹介となりますのでご了承ください。

【内容】

- ・ISO 14001環境マネジメントシステム規格改訂発行情報
- ・ISO 14001:2026(予定)認証への移行審査の必要性と準備
- ・認証移行後の有効な運用に向けてのインターテックの期待

※セミナー詳細・お申し込み等は、弊社ホームページをご参照ください。
https://ba.intertek-jpn.com/on_demand/?category=2